

1 修正の背景

平成26年 8月 「日本海における大規模地震に関する調査検討会」（国土交通省、内閣府、文部科学省）が津波断層モデルを公表
 平成27年10月 「日本海地震・津波調査プロジェクト」（文部科学省から東京大学地震研究所に委託）が津波断層モデルを公表
 平成28年 3月～平成29年2月 県防災会議地震対策部会の専門委員の意見を踏まえて津波シミュレーション調査の対象とする断層を設定し、調査を実施

2 主な修正内容

(1) 津波シミュレーション調査実施に伴う変更

① 想定される津波の設定の見直し

○ 調査にあたり想定した津波

・津波防災地域づくりに関する法律に基づく津波浸水想定の設定に必要な調査の対象は、「日本海における大規模地震に関する調査検討会」が公表した糸魚川沖(F41)及び富山湾西側(F45)の断層並びに呉羽山断層帯を震源とする地震による津波

・「日本海地震・津波調査プロジェクト」の研究成果については、**防災上の観点から参考として、6つの断層**（①富山湾西側の断層(TB1, TB2の連動)、②能登半島南東沖の断層(TB3)、③魚津沖の断層(TB4)、④糸魚川沖の断層(TB5)、⑤糸魚川沖の断層(TB6)、⑥糸魚川沖の断層(J01, J02の連動)）について調査を実施

○ 調査結果の概要（県全体）

発生頻度はきわめて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波が悪条件下で発生することを前提

・浸水面積

単位: km²

断層別浸水面積			最大浸水面積	断層別浸水面積			最大浸水面積
糸魚川沖(F41)	富山湾西側(F45)	呉羽山断層帯	(重ね合せ)	<参考>TB1&2(連動)	<参考>(全断層重ね合せ)		
11.8	10.6	9.4	17.9	19.1	22.7		

・最高津波の水位及び到達時間

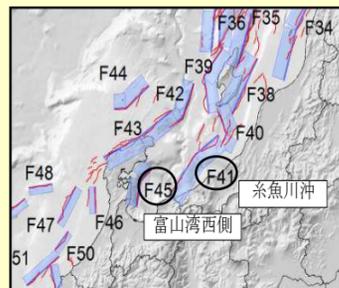
水位: T.P.m 到達時間: 分

糸魚川沖(F41)		富山湾西側(F45)		呉羽山断層帯		<参考>TB1&2(連動)	
水位	到達時間	水位	到達時間	水位	到達時間	水位	到達時間
3.1～5.7	15～64	3.2～10.2	6～18	2.4～6.8	2～33	4.1～11.5	4～17

・被害想定

建物: 棟 死者: 人

糸魚川沖(F41)			富山湾西側(F45)			呉羽山断層帯			<参考>TB1&2(連動)		
木造建物		死者	木造建物		死者	木造建物		死者	木造建物		死者
全壊	半壊		全壊	半壊		全壊	半壊		全壊	半壊	
332	1,020	35	61	499	105	290	1,270	99	531	2,595	374



<富山県の津波の主な特徴>

1. 浸水深5mを超える区域は、沿岸から概ね10m以内で、沿岸のごく一部の地域に限られる。
 ※「3m以上5m未満」→沿岸から概ね20m以内（一部の地域で最大200m）
 「1m以上3m未満」→沿岸から概ね200～300m以内（一部の地域で最大400m）
2. 津波水位は、入善町の10.2mが最高。（対象断層F45）
3. 最高水位は第1波又は第2波で、その後、急激に減衰する。（継続時間が短い）
4. 海面が変動を開始する時間が全般的に早い。また、最高津波の到達時間が早い地域もある。

② 津波防災対策の拡充強化

○ 津波発生時の警戒避難体制整備の位置付けを明確化

・県は、津波浸水想定を踏まえ、警戒避難体制を特に整備するため、津波災害警戒区域を指定
 ・避難施設・避難場所、避難経路、避難訓練など警戒避難体制に関する事項の市町村地域防災計画への規定、津波ハザードマップの作成（既に規定）

○ 県民に対する防災知識の普及等

・防災教育等を通じた津波想定の数値等の正確な意味の理解の促進
 ・最大クラスの津波や、その到達時間を踏まえるなど実践的な訓練の実施

(2) 国の防災基本計画の修正等に伴う見直し(各編共通)

○ 適時適切な避難行動を促す情報伝達

・「緊急的な待避」や「屋内安全確保」といった適切な避難行動の促し
 ・アラート等の多様な手段を複合的に活用した避難勧告等の伝達 等

○ ドクターヘリの運航体制整備

○ 災害時応援協定の締結

・（一社）全国木造建設事業協会、（公社）地盤工学会北陸支部などとの協定の追加 等